

## 日照の検討と日射量の算出（レポートの課題）

### 1. 課題

- (1) 日本国内の都市の中から1ヶ所、また日本以外の世界中の都市の中から1ヶ所、合計2カ所の都市を選び、それぞれの都市における春分の日（3月21日（元旦起算通し80日目）、南半球では秋分の日）、夏至の日（6月21日（元旦起算通し172日目）、南半球では冬至の日）ならびに冬至の日（12月22日（元旦起算通し356日目）、南半球では夏至の日）の太陽高度と太陽方位角を、おおよそ6時から18時までの間の1時間おきに計算して、水平面日影図を描け。ただし、閏年ではないとする。

なおレポートには、選んだ都市の緯度と選んだ理由を明記すること。ただし、レポート提出者の中で、選んだ都市が重複しないように、選択の際には十分注意すること。

- (2) (1) で選んだそれぞれの都市における春分の日、夏至の日ならびに冬至の日の太陽高度と太陽方位角を用いて、それぞれの日の水平面全天日射量、南面、東面ならびに西面の壁がそれぞれ受ける日射量の一日の変化（おおよそ6時から18時までの間の1時間おき）をグラフに描け。ただし、大気透過率は、夏至では0.6、春分の日（もしくは秋分の日）では0.65、冬至では0.75、とする。

- (3) 例題で扱った熊本、自分の選んだ2ヶ所の都市の

- ・水平面日影図
- ・水平面全天日射量、南面、東面ならびに西面の壁がそれぞれ受ける日射量の一日の変化の図

をそれぞれ比較して考察し、考えられることを述べよ。

- (4) 講義・演習を受けての感想、意見、批評などを書いてください。

注1) レポート中のグラフや図は、見やすいように各自で工夫すること。レポートの体裁は、A4判であれば、枚数には特に制限を設けないが、他人が見ても（読んでも）わかりやすいレポートを作成するよう心がけること。なお、最低限、学籍番号と名前は明記すること。また、レポートが2枚以上になる場合は、ステープラーなどで綴じてから提出すること。

注2) できるかぎり配付資料 p.11（5月10日配布）の参考文献などを参考にし、様々な観点から考察を進めることが望ましい。他の人とは違った自分独自の見方でレポートを書くことが強く望まれる。そのためには、新たなグラフや図表、写真などを是非追加して欲しい。

## 2. 締め切り

2006年5月26日（金）（厳守のこと）

## 3. 提出先

下記の担当者の所まで。必ず、手渡すこと。手渡さないで扉にはるなどした場合は、紛失しても責任はもてない。なお、質問なども下記の担当者まで。また、やむを得ない事情により、レポートの提出が遅れる場合は、理由によっては考慮することもあるので、できる限り早急に下記まで連絡を取ること。

助教授・辻原 万規彦

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階西南角

電話：096-383-2929（内線 492）

e-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

助手・安浪 夕佳

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階南側中央付近もしくは3階西南角（細井研究室）

電話：096-383-2929（内線 482）

e-mail：yasunami@pu-kumamoto.ac.jp